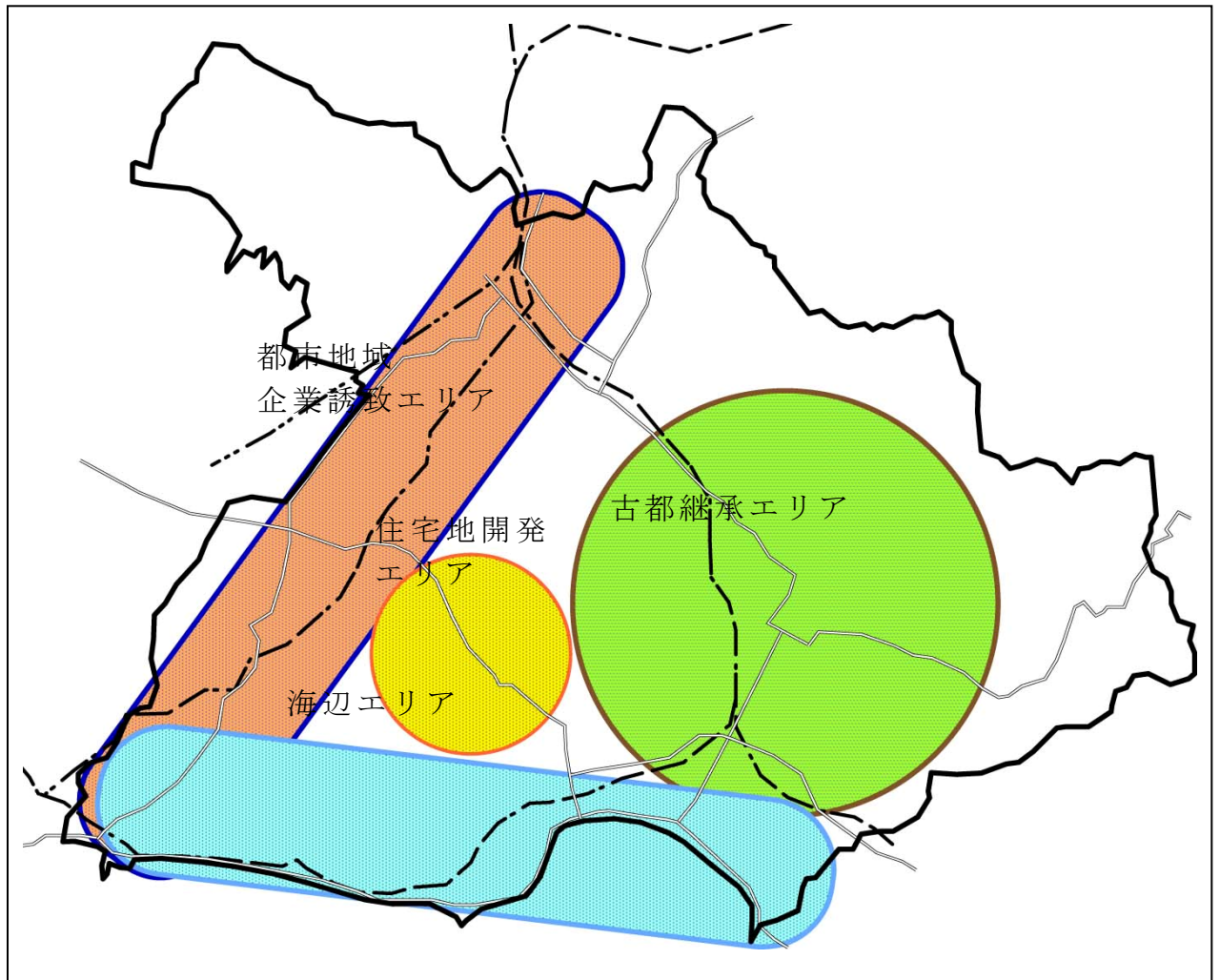


I 鎌倉都市解説

- 1、鎌倉の土地利用の現況は中世の古都を基本としたゾーンと明治の鉄道駅開設にともなう発展や、昭和の高度経済成長期の企業誘致、住宅地開発そして近年の観光開発などが重層的に重なり合っている。



2、中世鎌倉時代に現在の道路の骨格が出来上がった。

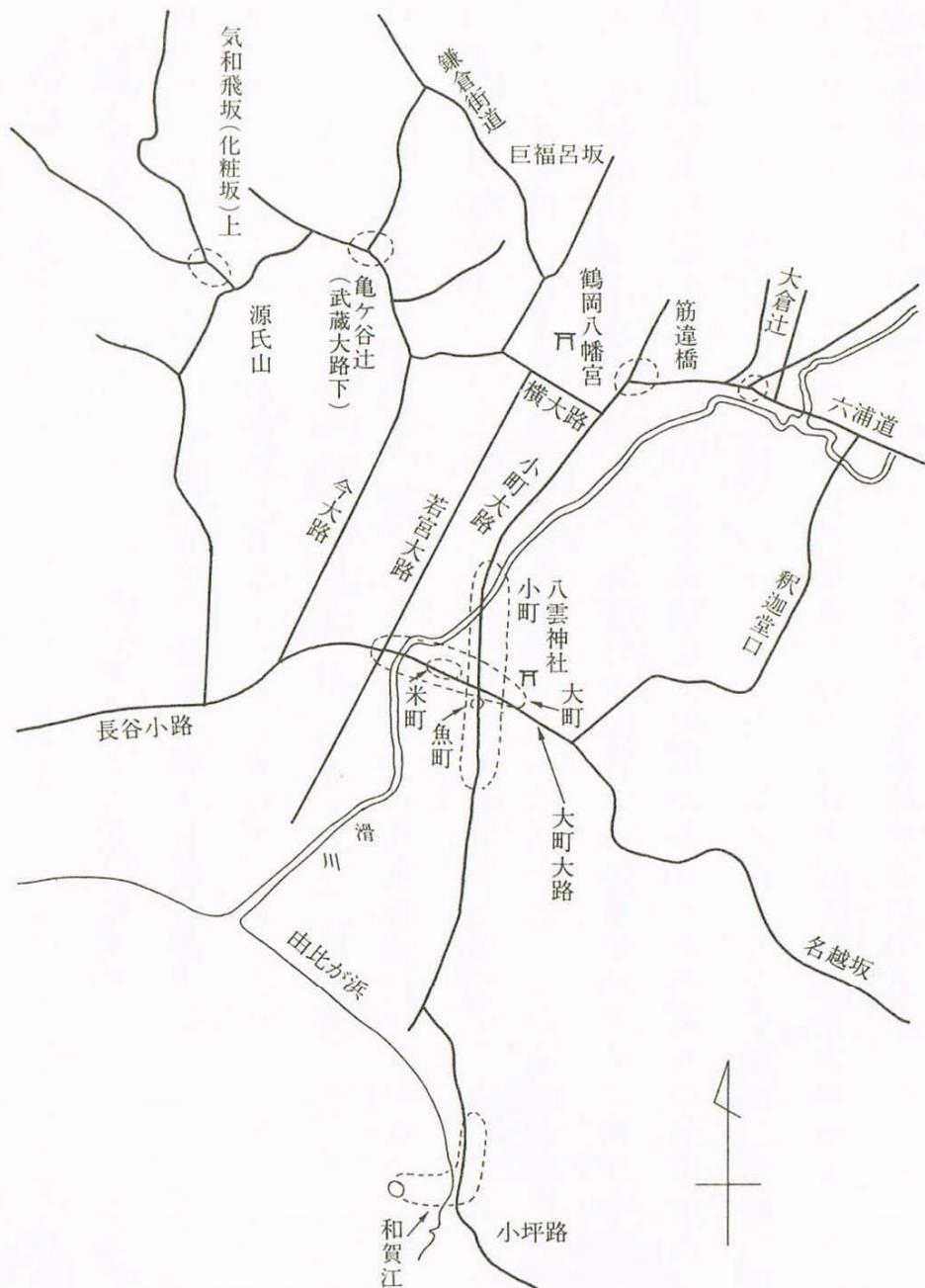
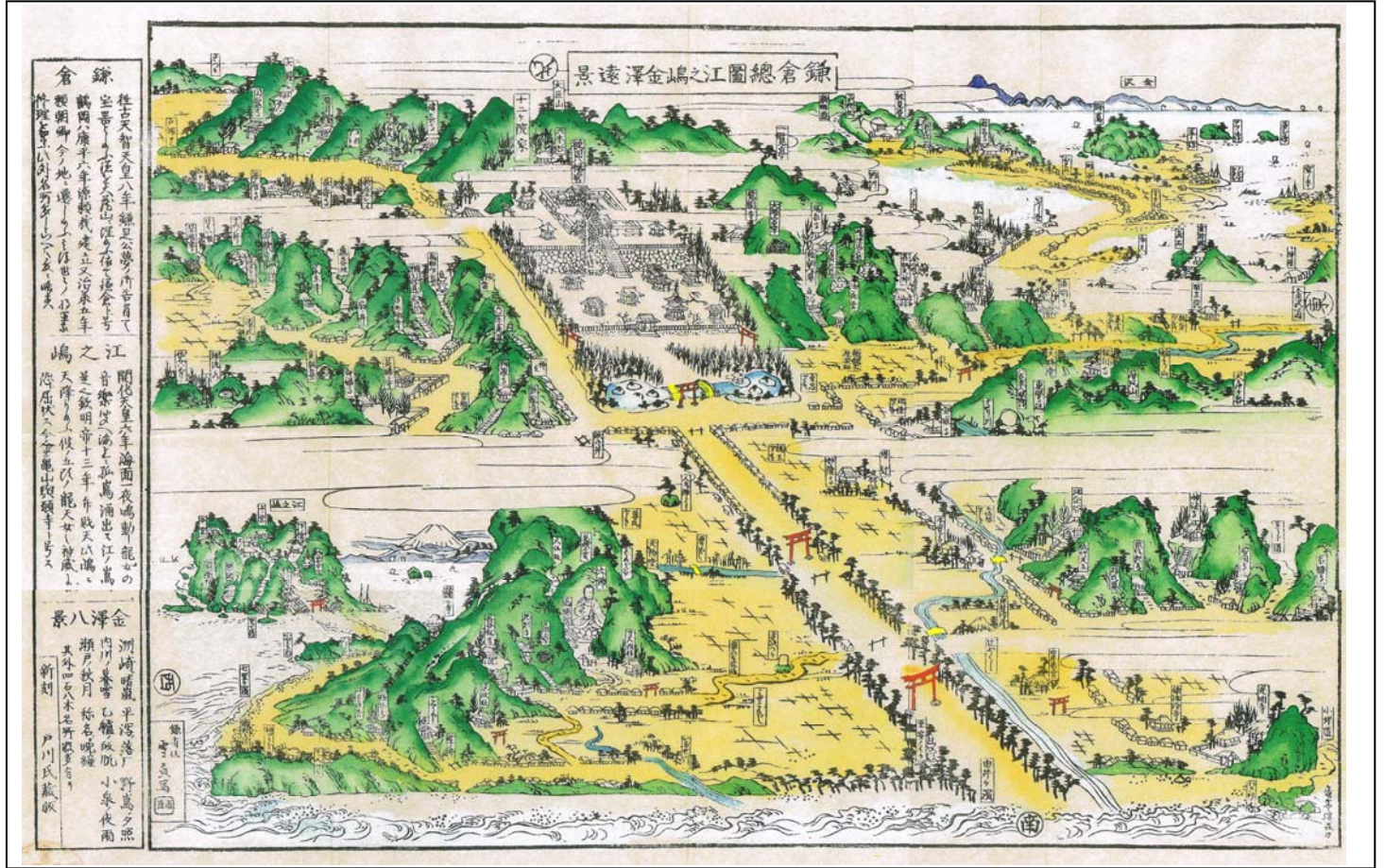
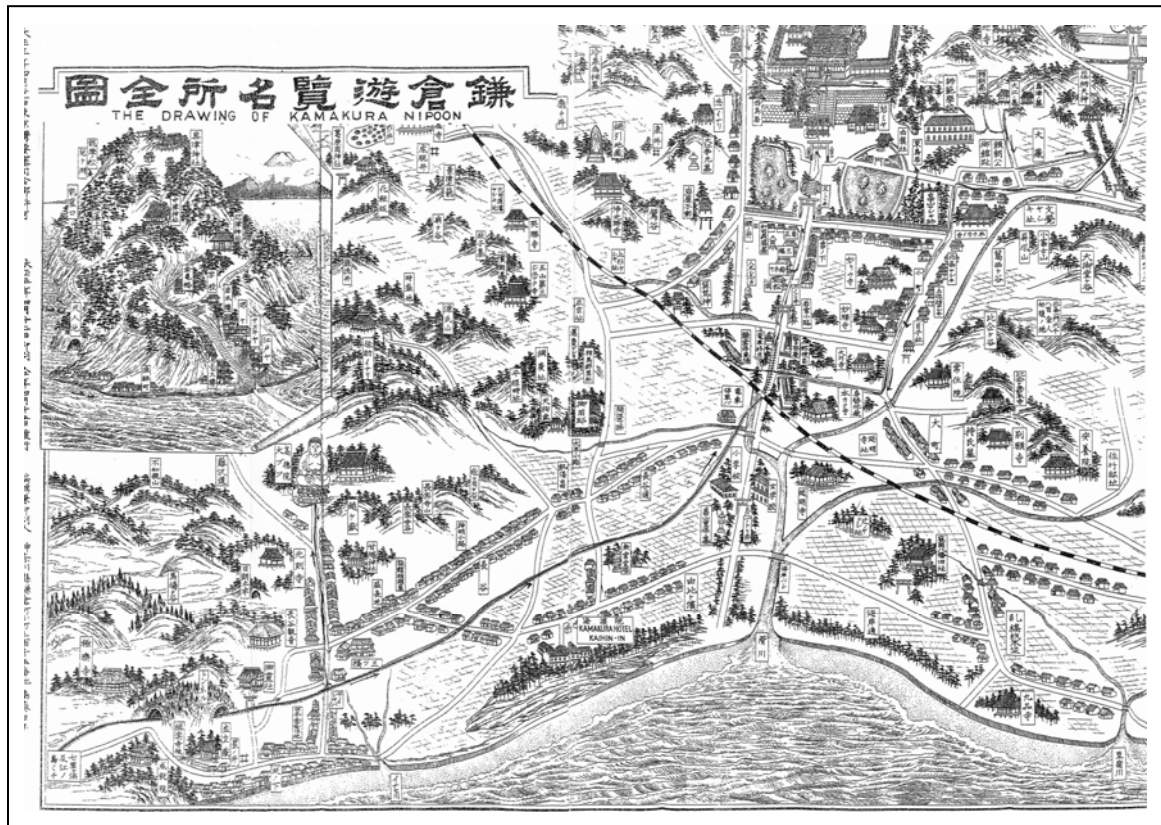


図63 中世鎌倉の商業地域

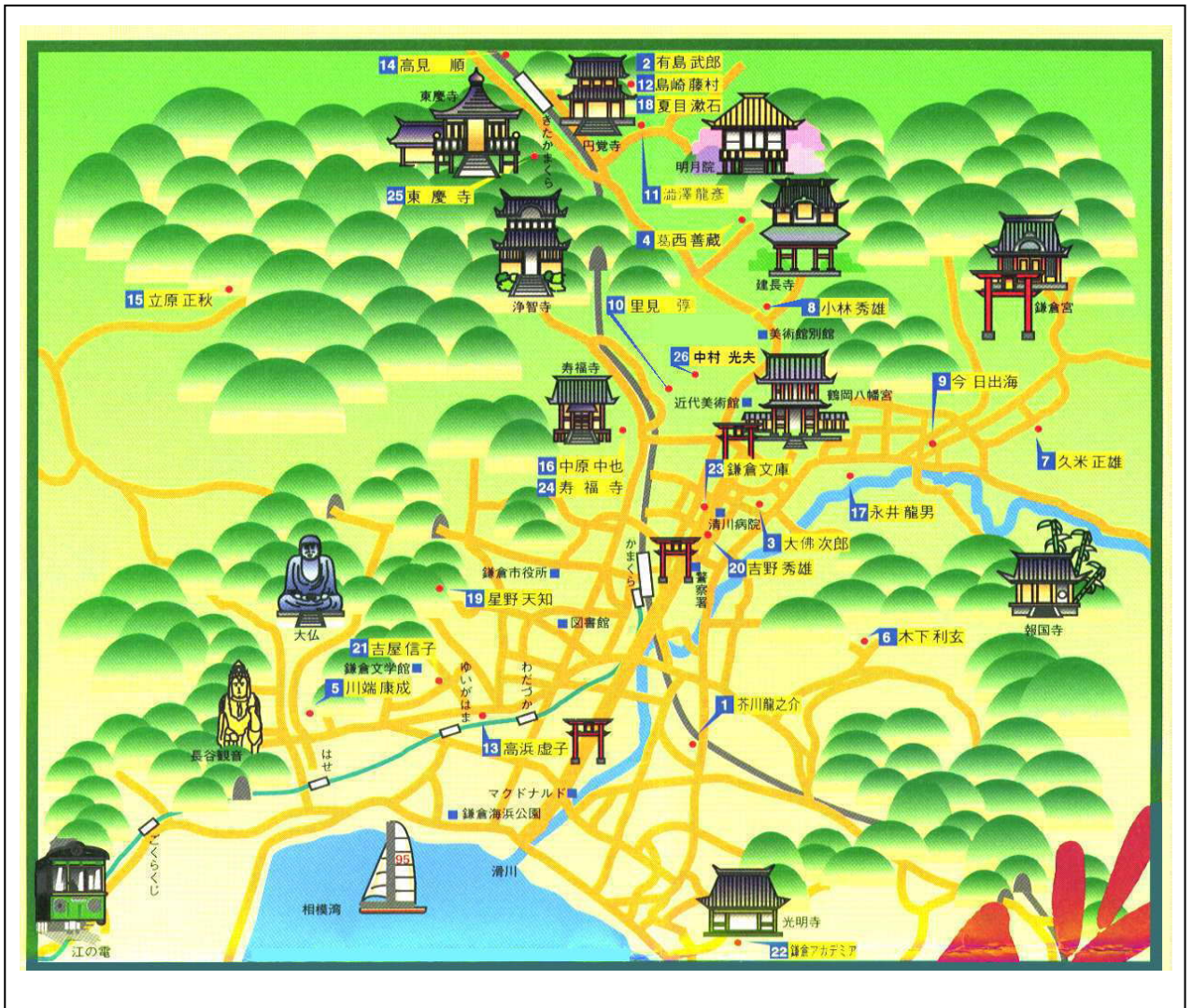
注) 本図は『よみがえる中世3 武士の都鎌倉』38頁所収の図を参考しつつ私見を加えた。例えば、原図では魚町は甘縄に比定されている。甘縄のは「甘縄魚町」と史料に見え、それは大町の魚町と区別するためと考え、私は大町の魚町橋あたりを魚町に比定した。

3、江戸時代には10カ村に区分されたひなびた農村であった。
幕末に江ノ島への観光遊覧への立ち寄り観光地となった。
鎌倉幕府の城下町の建築的痕跡はほとんど残っていない。

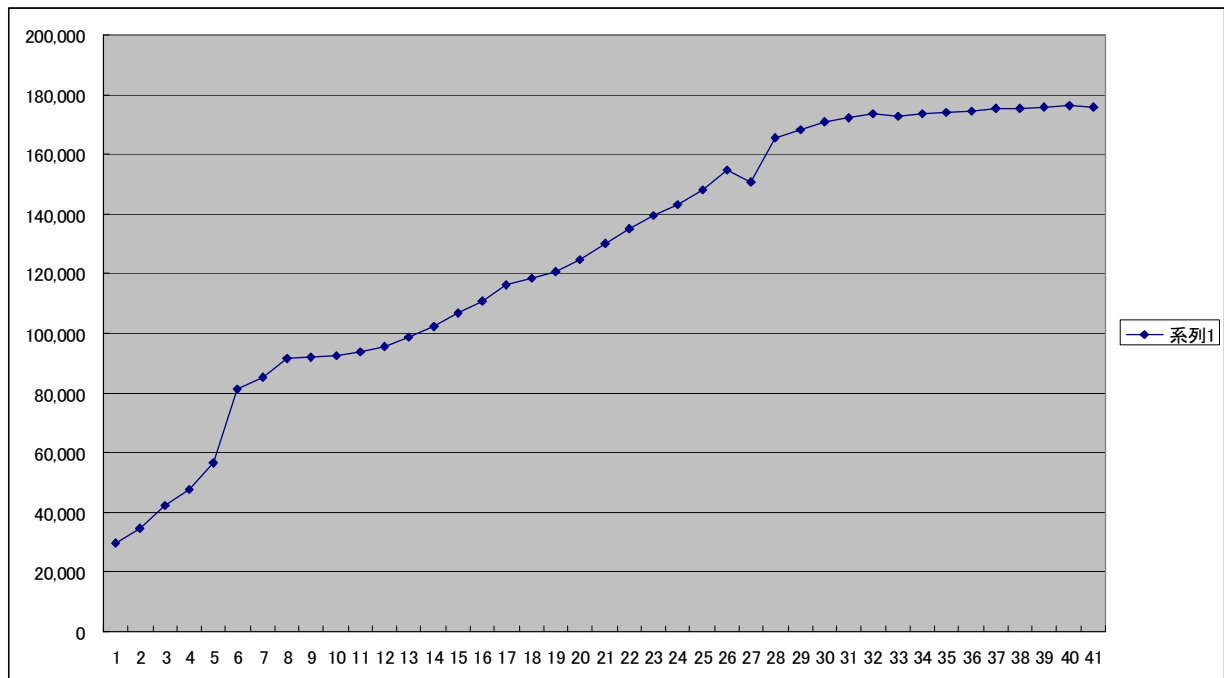


[illegible]

5、横須賀線鎌倉駅の開設にともない住宅地として発展し、同じ時期から昭和にかけて多くの文士が居住するようになった。



6、昭和初期から戦後へかけて企業誘致と住宅地開発が進み、東京、横浜へ通う人々の住宅地として栄え、人口が一気に増加した。



企業誘致

昭和28年2月 企業誘致条例 一定期間の市税減免

既成工業地帯の強化

鎌倉に誘致された企業 29

市の西北部に立地 岩瀬、大船、植木、山崎、上町屋、手広、笛田、常盤
減免額1億6885万（29～39年 10年間合計）

高度経済成長期

京浜工業地帯拡大の一環

大船・深沢地区 機械工業部門 化学部門（三菱電機、昭和電工
武田薬品 日本精工等の系列会社 低価格の地価による

地価が上昇し高度経済が一段落すると企業進出もやむ。

従業員の住宅、道路等の基盤整備、周辺一帯の住宅地開発がすすむ。

昭和36年9月 企業誘致条例廃止（2年間の経過措置）

大船地区

岩瀬

精立工業 航空 マルイ工業 大船工場
資生堂 大船工場

大船

三菱電機 商品研究所 大船製作所
湘南金属工業 吉田工業

台

大日本シンロイヒ 西村電機 東洋化学

小袋谷

松浦電機

岡本

ナスステンレス 昌蓮工作所

深沢地区

山崎

東京スリーブ 昌光硝子 日本シーピーケミカル

上町屋

三菱電機 鎌倉製作所
玉川合成樹脂

梶原

日本有機工業

手広

三ツ木製機所

常盤

新光塗そう 神谷精機 極東窒化研究所
日本トムソン

市民座

松竹 三共化成工業 西武百貨店
井友工作所 東洋レーヨン 大倉製作所

- 7、近年では観光地化して年間1800万人の人々が訪れる一大観光地となっている
- 8、歴史文化の面では遺跡発掘、調査研究が継続的に行われている。
- 9、明治、大正、昭和の各時期において計画的なまちづくりの機会があったにもかかわらず全体構想や都市計画事業無しにまちが発展してきた。



- 10、結果として
「鎌倉は気位の高い隠れ家的密集市街地」として生き続けている。